書聖・中林梧竹の足跡

海外飛香（市重要文化財 平成２年３月５日指定）

中林梧竹略歴　中林梧竹は、文政10年（1827）４月19日小城藩士中林経緯の長男として現在の小城市小城町本町（新小路）に生まれた。名を隆経、字は子達、通称彦四郎といい、梧竹は号である。５歳のとき、岡山神社境内での献書会で見事な字を書き神童と騒がれたという。藩校興譲館に学ぶと共に、草場佩川に師事した。19歳で江戸に遊学、28歳で帰藩し興譲館の指南役を務めた。明治維新後、長崎に出向き当時の中国最新の書法に着目し、56歳で北京に渡り１年８ヶ月に及び書の研鑽に励んだ。帰国後、副島種臣、松田正久等の斡旋で東京銀座「伊勢幸」に寄寓した。その後伊勢幸に29年間住み、その間全国を遍歴し多くの名作を残した。65歳のときには明治天皇に王羲之の十七帖の臨書を奉献し羽二重の御衣を賜っている。71歳で再度北京に渡った。72歳、富士山頂に「鎮國之山」銅碑、82歳のときに小城市三日月町金田に三日月堂（梧竹観音堂）を建立した。大正２年（1913）、87歳で梧竹村荘にて没した。梧竹は日本近代書道の基礎を築き、あらゆる書体で創造性に富む品格の高い作品を書き、書論も残すなど、名実ともに東洋一の書家としてその評価は高い。

1 岡山神社神門銘

（市重要文化財 平成15年5月1日指定）

岡山神社は寛政元年（1789）創建。小城初代藩主鍋島元茂、２代藩主直能を祀ってある。

明治21年（1888）梧竹62歳筆の隷書で撰文は久米邦武。鳥居の左右柱に長文が刻まれている。

2 獻燈銘

（市重要文化財 平成15年5月1日指定）

岡山神社境内にあり明治21年（1888）梧竹62歳筆。左右の灯籠に「獻燈」「明治二十一年」と隷書で刻まれている。

3 桜岡公園碑

小城公園東側入口にあり梧竹揮毫による「桜岡公園」「中林隆経書」と刻された自然石が立っている。「明治八年八月建」と刻銘がある。題字は篆書体となっている。

4 梧竹退筆塚

大正３年（1914）、翁の遺志により建てられた。小城公園内にあり、正面には小城藩鍋島家11代目直虎の揮毫による「梧竹退筆塚」の題字があり、その碑台には、梧竹87歳揮毫の「信哉」二字がある。またその左手にある観世音の石祀の石台には梧竹（忘言）46歳揮毫の「和同」がある。正面入口の石門は向かって右柱に「書聖垂範」左柱「自彊乃成」と「身担杠礎」の台石もある。昭和45年（1970）現在の場所に移転された。

5 甲戌烈士之碑

小城公園内にあり、明治７年（1874）の佐賀の乱で戦死した、旧小城藩士13人の慰霊碑で自然石に「甲戌烈士之碑」と刻まれ、碑台は亀趺となっている。明治28年（1895）梧竹69歳の時の建立。別称に「亀の碑」と呼ばれている。

6 後西院御製碑

小城公園内の茶筅塚古墳後円部の頂上石組の中に一基碑石がある。小城藩２代藩主直能がこの地に入り桜を増殖し、この丘を「桜岡」と呼んだ。このことをもれ聞いた後西天皇及び公卿達が歌を贈り、これを帖にし「海外飛香」と名づけた。明治８年（1875）に県下で最初に公園として指定され、「桜岡公園」となった。後西院御製の「さく花に　まじる岡辺の松の葉は　いつとなきしも　色を添えつつ」を梧竹が揮毫し、有志によって碑が建立された。

7 梧竹生誕地

小城町本町（新小路）の生家は今は無く、生誕地の碑が建てられている。翁の生誕地より「退筆塚」までの250mの通りを昭和46年「梧竹通り」と命名。近くに梧竹が学んだ藩校、興譲館跡地（現桜岡小学校）がある。

梧竹通り

小城市立中林梧竹記念館紹介

「桜城館」の２階にあり、郷土が生んだ明治の書家中林梧竹翁の偉業を顕彰するため、作品、遺品などを展示しており、書聖・中林梧竹の人と芸術を知ることができます。

観覧料

- 個人　１人につき　200円
- 団体（10名以上）　180円

◎大学生以下無料

開館時間

午前９時から
午後５時まで

休館日

- 月曜日
- 祝日（こどもの日及び文化の日を除く。）
  ただし、当該祝日が月曜日に当たるときは、その翌日とする。
- 年末年始（12月29日～１月４日）

交通アクセス

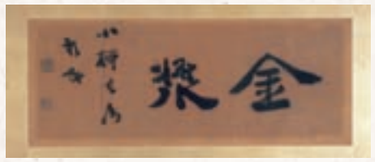
■マイカー利用の場合
長崎自動車道
- 佐賀大和I.Cから15分
- 多久I.Cから15分

■ＪＲ利用の場合
- JR佐賀駅から唐津線利用で15分　（小城駅下車）

■バス利用の場合
- 佐賀駅バスセンターから昭和バス利用で40分（小城バスセンター下車）

発行・お問合せ先

小城市立中林梧竹記念館
〒845－0001 佐賀県小城市小城町158－4　桜城館２F
TEL 0952－71－1132 / FAX 0952－71－1145
e-mail　bunka@city.ogi.lg.jp



8 小柳酒造

小城町で酒造業と和紙の卸業を営んでいた４代目当主小柳平三郎（安政５年～大正８年）と小柳家で清酒高砂を飲み交わして書いた扁額「金樂」を店内に掲げてある。

9 須賀社額

小城町須賀神社入口、鳥居題額。明治10年（1877）頃、梧竹50歳代頃の揮毫とされる。

10 神輿紀念碑

須賀神社境内にあり、明治33年（1900）梧竹74歳揮毫、隷書体で刻まれている。

11 村岡総本舗

小城町にあり小城羊羹の老舗。店内に「天開図畫（画）」、明治40年代、梧竹80歳代頃の揮毫による篆書が掲額されている。

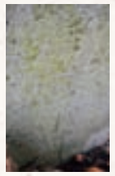
12 三日月堂（梧竹観音堂）

（市史跡 平成７年２月23日指定）

観音堂の建立は、梧竹の生涯における信仰の集大成であり、明治39年（1906）に計画され明治41年（1908）３月に落成した。梧竹82歳の時である。堂内には、聖観世音菩薩二体が安置され、梧竹筆による中林家先祖代々の木牌、先師（草場佩川・山内香雪・余元眉）の木牌、小城藩主の木牌が奉祀してある。三日月町金田にあり、梧竹自用印の「金田野人」はこの地より名づけた。

13 済渡橋

梧竹観音堂前小さな石橋の両石柱にそれぞれ篆書で「済渡橋」、変体仮名で「さいとはし」と刻されている。裏には「明治四十年九月」と刻されている。



14 妙観院

天台宗の寺院であり三日月町金田にある。本堂には扁額「金剛輪堂」が掲げられている。この書は大作であったため、看護婦たちに背後から抱えられて揮毫したといわれている。梧竹筆大字では、これが絶筆である。大正２年（1913）７月、梧竹87歳の揮毫である。

15 馬頭観世音碑

三日月町金田の天満神社境内にある。明治41年（1908）梧竹82歳の揮毫で楷書である。もとは三日月堂敷地内にあったが、昭和23年（1948）頃に現在の場所に移転された。

16 八幡社額

三日月町四条の堀江神社にあり、本殿に「八幡社」と掲額されている。大正２年（1913）梧竹87歳の揮毫である。

17 日吉神社額

三日月町島溝の日吉神社にあり、本殿正面上に「日吉神社」と掲額されている。大正２年（1913）梧竹87歳の揮毫である。

18 長栄寺

三日月町社にある梧竹の墓所。石塔は聖観世音菩薩をかたどった像身である。梧竹は大正２年（1913）８月４日に三日月堂敷地内にあった「梧竹村荘」で息を引き取った。享年87歳。梧竹は生前一寸五分（約５センチ）の観音像を常に身につけていたといわれている。

19 勝妙寺山門銘

三日月町深川にあり日蓮宗の名刹である。寺院は「葉隠」で有名な山本常朝の実家中野家の菩提寺でもある。山門銘は右門「四海龢合天長地久」、左門「国土安穏五穀成就」

明治28年（1895）梧竹69歳の揮毫で、篆書体となっている。

20 天山神社記念之碑

小城町岩蔵の天山神社境内にある。「天山神社一千二百年祭記念之碑」とあり、明治33年（1900）梧竹74歳の揮毫である。

21 菅聖廟神門銘并序

（市重要文化財 平成15年５月１日指定）

小城町米隈にあり、安政５年（1858）梧竹32歳の揮毫である。鳥居の左右柱に長文が刻まれている。

22 正満寺

牛津町柿樋瀬にあり久本家の墓所がある。その久本家の墓前に明治17年（1884）梧竹58歳の揮毫の門柱がある。隷書体となっている。

23 乙宮社灯籠

牛津町乙宮社境内にある灯籠に「獻燈」と刻されている。安政２年（1855）梧竹29歳の揮毫である。近年になって牛津乙宮社資料から梧竹揮毫であることが判明した。

24 福田寺

芦刈町芦溝にあり寺院本殿正面上に「鶴鹿山」の木額がある。明治44年（1911）85才前後の揮毫である。